

# 最近の経済動向

令和2年9月号

(北海道の景気動向～令和2年7月の経済指標を中心として)

**低迷しているものの、一部に明るい動きがみられる**

## ■生産動向

- P1 生産活動(鉱工業生産指数)  
低い水準にあるものの、一部に明るい兆しがみられる

## ■需要動向(消費・投資)

- P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、インターネットを利用した一世帯支出額、新車登録台数)  
一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが広がっている
- P6 住宅建設(新設住宅着工戸数)  
減少している
- P7 公共工事(公共工事請負金額)  
増加している
- P8 観光(来道者数、来道外国人数、宿泊者数)  
低い水準にあるものの、持ち直しの動きがみられる
- P10 輸出入(輸出額、輸入額)  
輸出額、輸入額とも前年を下回った

## ■企業倒産

- P11 企業倒産(倒産件数、負債総額)  
倒産件数、負債総額ともに減少した

## ■雇用動向

- P13 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)  
弱い動きが広がっている

## ■物価動向

- P15 物価(消費者物価指数)  
消費者物価指数は前年を下回った

## ■企業の業況感

- P16 企業経営者意識調査  
前期から下降している
- P17 企業のみなさまから伺いました

北海道経済部経済企画局経済企画課

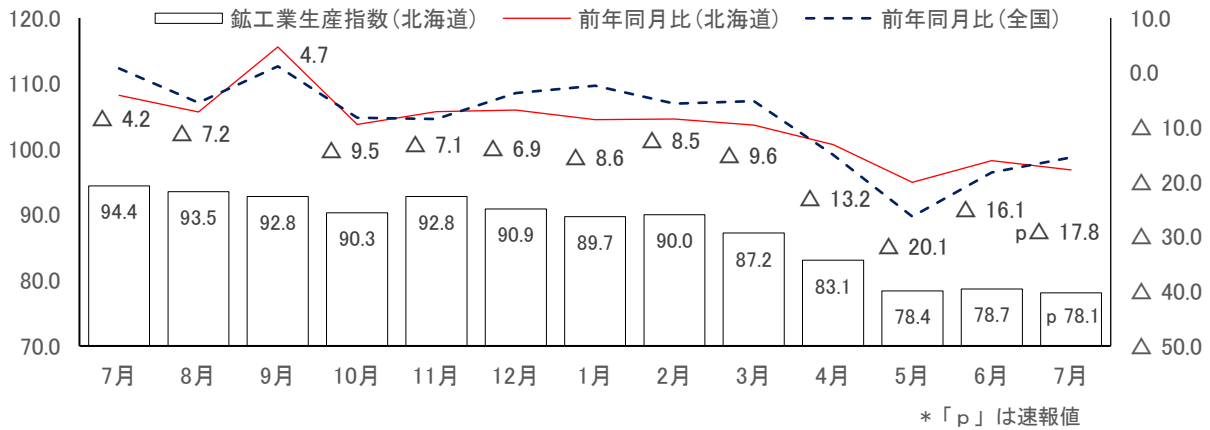
# 生産活動～低い水準にあるものの、一部に明るい兆しがみられる

## 鉱工業生産指数（7月）

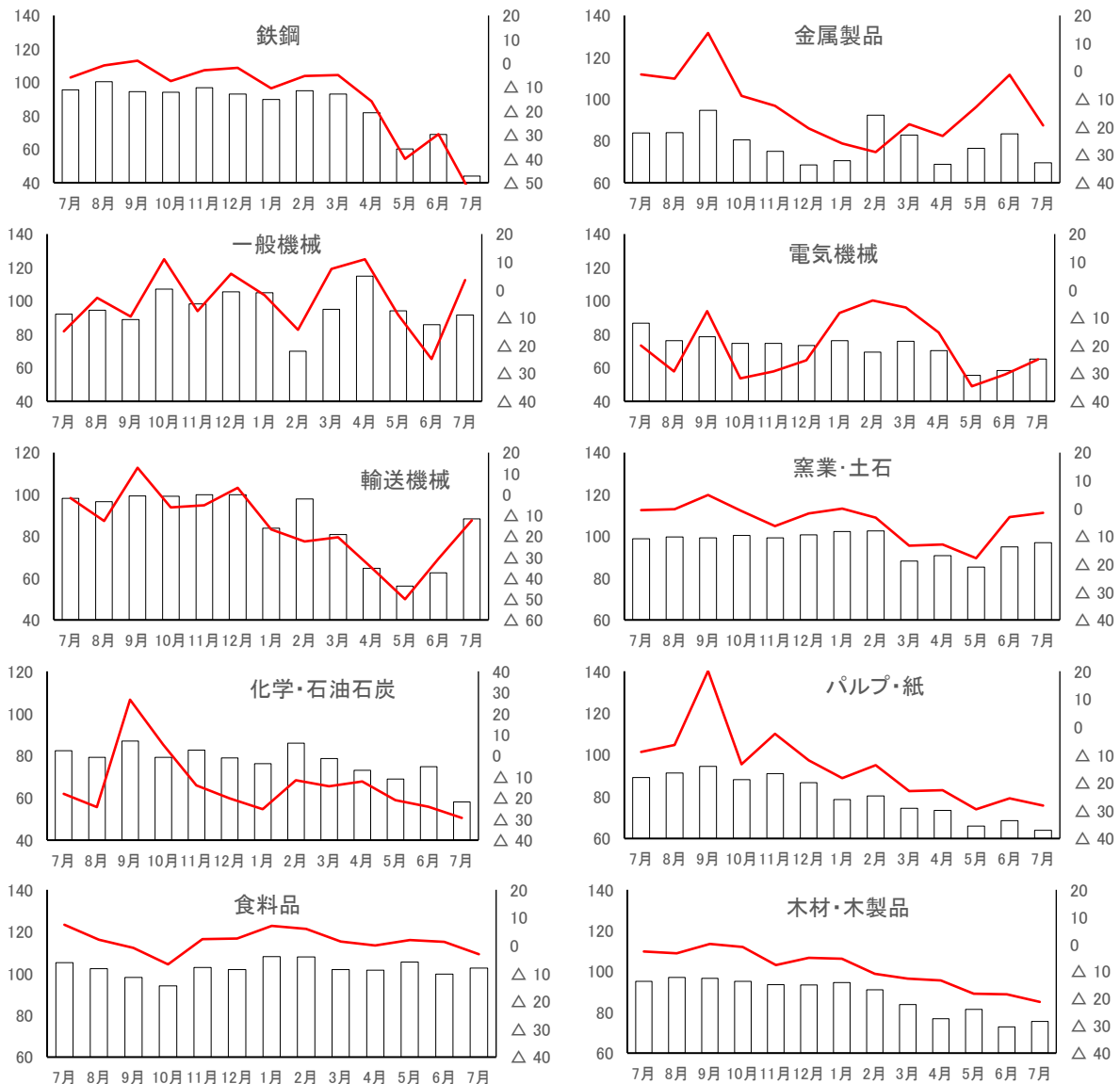
鉱工業生産指数（季節調整済）は、78.1で前月比 $\Delta 0.8\%$ （2か月ぶりの低下）であり、原指数による前年同月比は、 $\Delta 17.8\%$ （10か月連続の低下）となった。業種別にみると、輸送機械工業など9業種が前月比上昇、鉄鋼業など6業種が前月比低下となった。

（季節調整済指数：平成27年＝100）

（原指数前年同月比：％）



### ■主な業種の季節調整済指数(右軸：原指数前年同月比%)

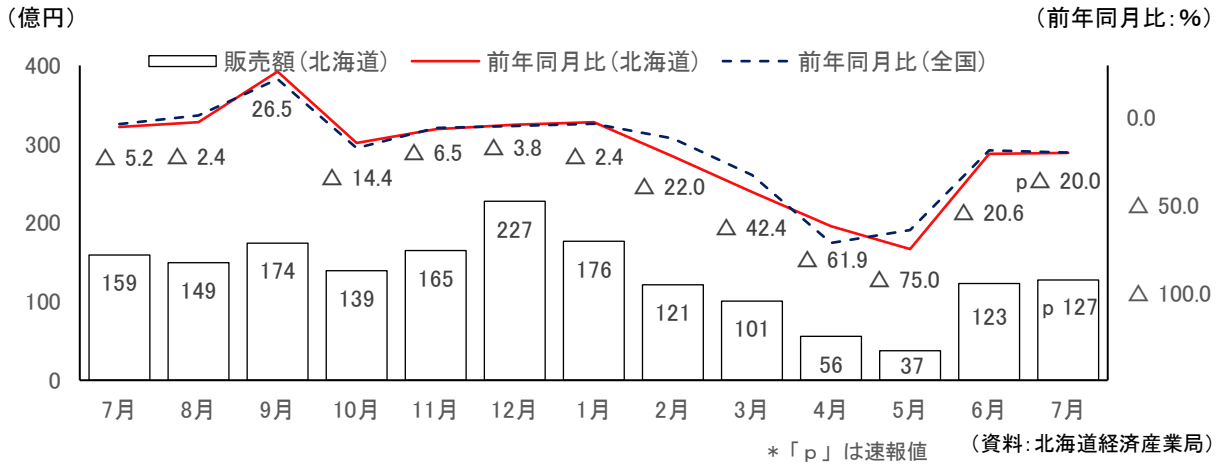


（資料：北海道経済産業局）

# ■個人消費～一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが広がっている

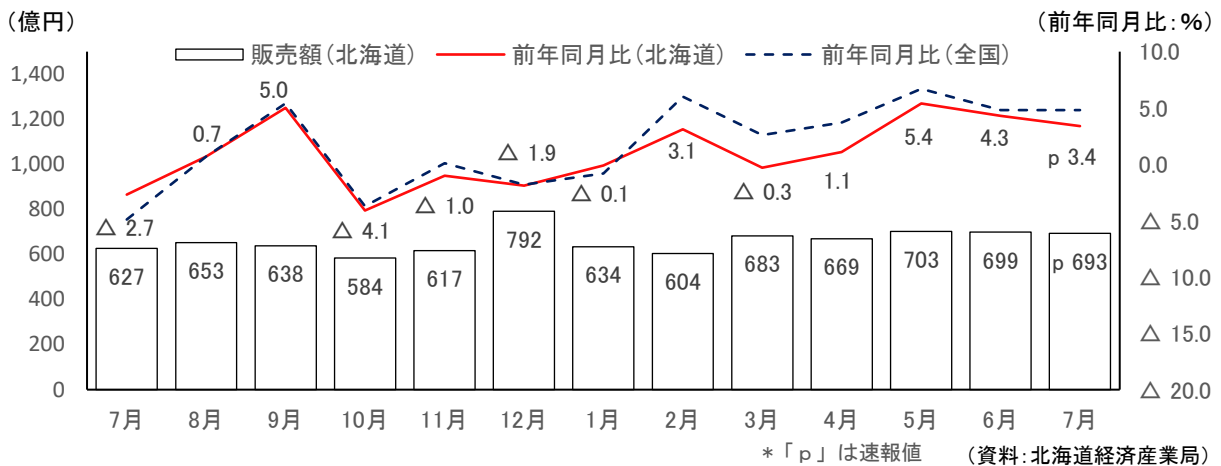
## 百貨店販売額（7月）

百貨店販売額は、127億円で前年同月比 20.0%の減少となり、10か月連続で前年を下回った。



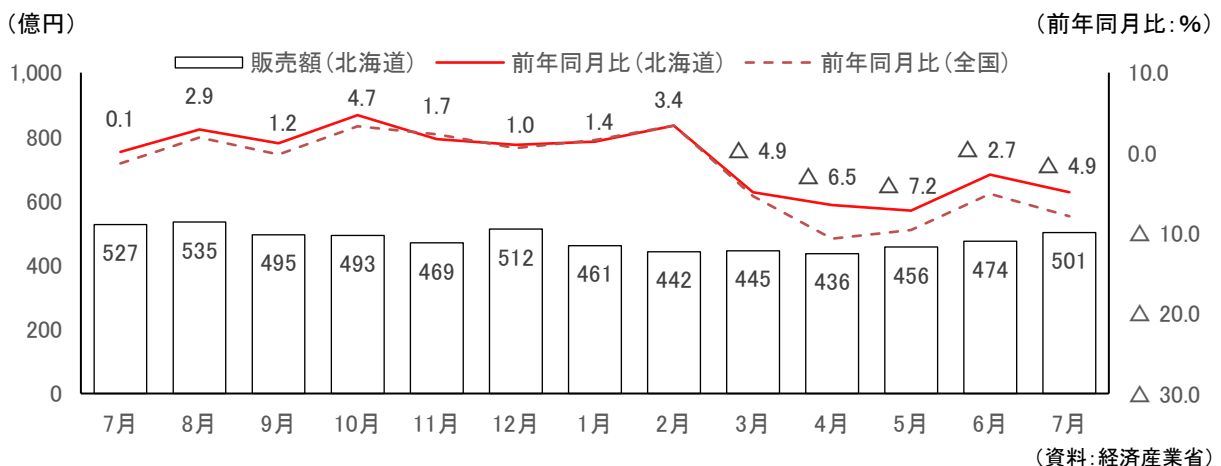
## スーパー販売額（7月）

スーパー販売額は、693億円で前年同月比 3.4%の増加となり、4か月連続で前年を上回った。



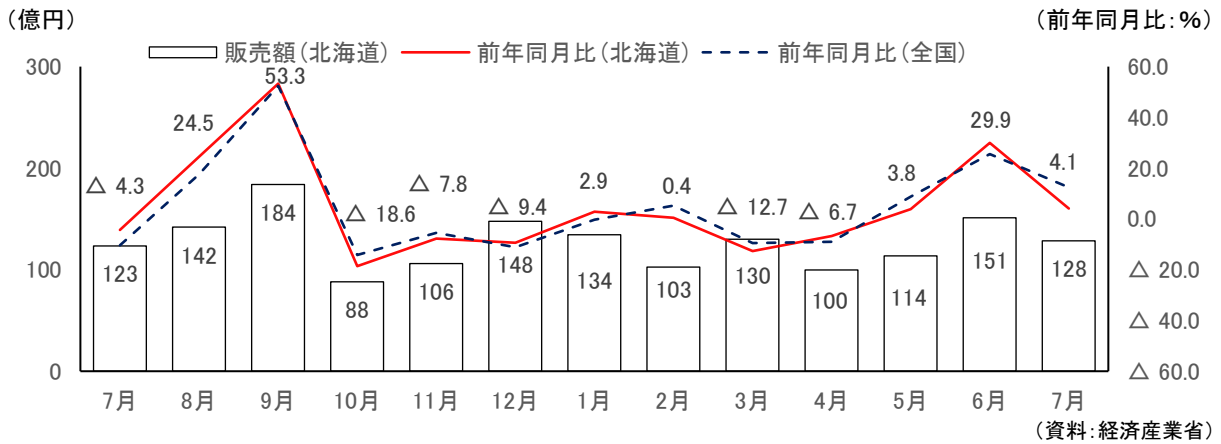
## コンビニエンスストア販売額（7月）

コンビニエンスストア販売額は、501億円で前年同月比 4.9%の減少となり、5か月連続で前年を下回った。



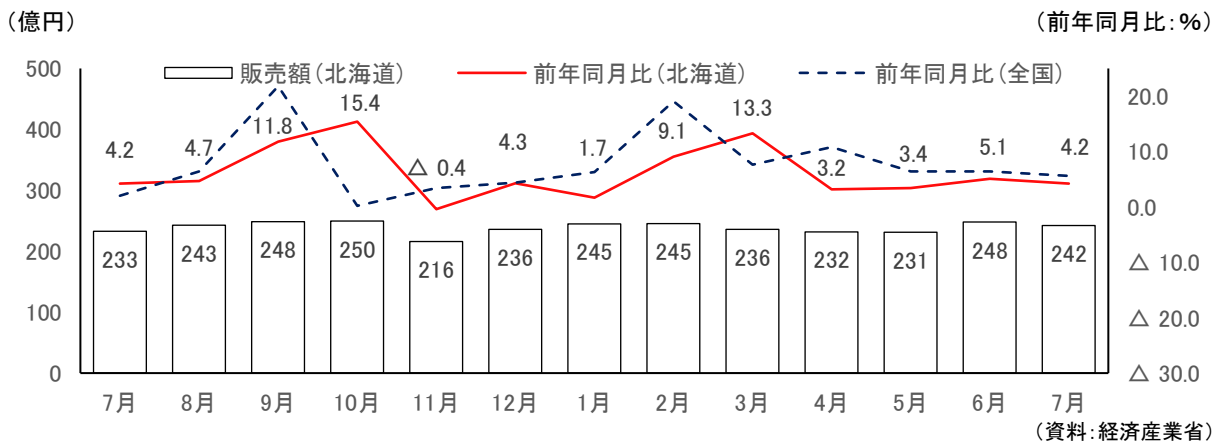
## 家電大型専門店販売額（7月）

家電大型専門店販売額は、128 億円で前年同月比 4.1%の増加となり、3 か月連続で前年を上回った。



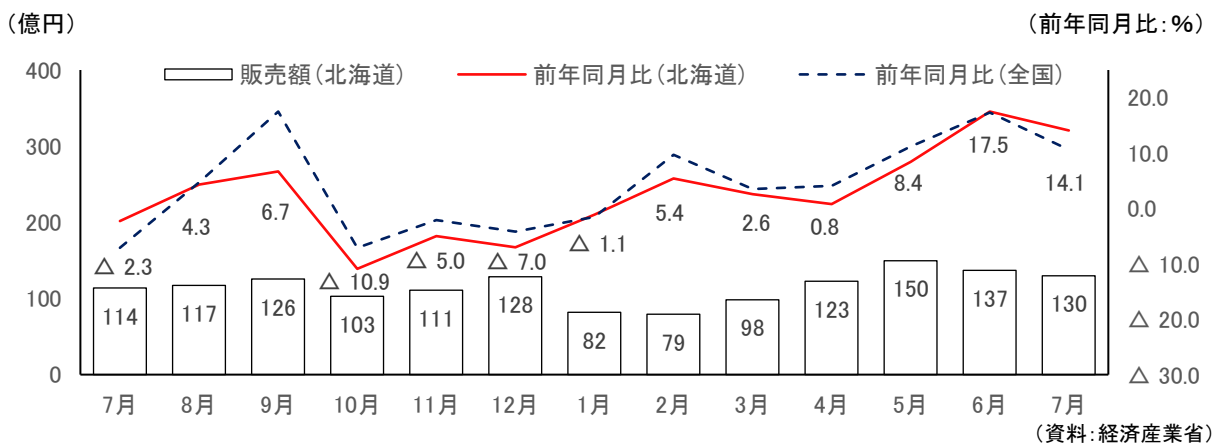
## ドラッグストア販売額（7月）

ドラッグストア販売額は、242 億円で前年同月比 4.2%の増加となり、8 か月連続で前年を上回った。



## ホームセンター販売額（7月）

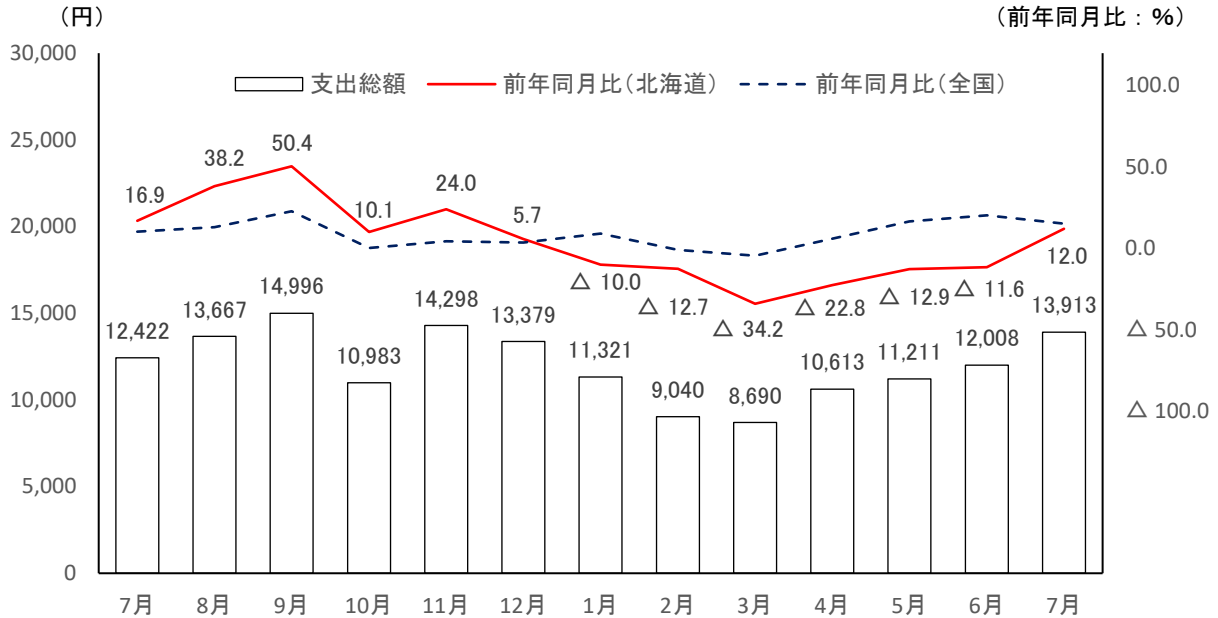
ホームセンター販売額は、130 億円で前年同月比 14.1%の増加となり、6 か月連続で前年を上回った。



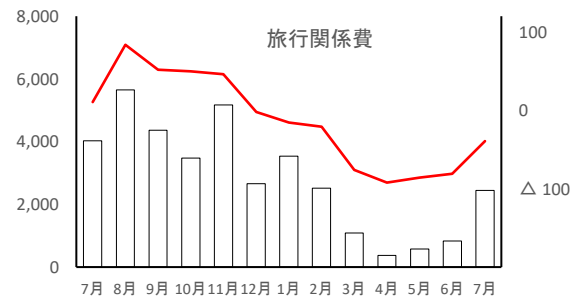
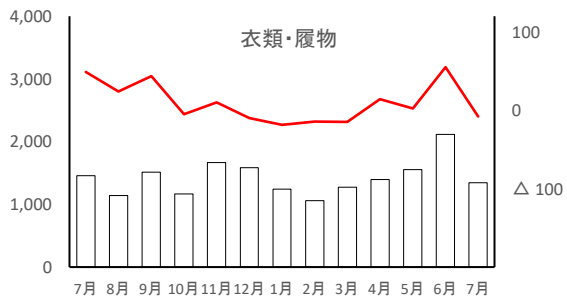
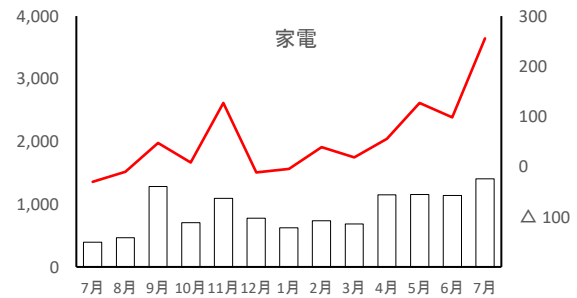
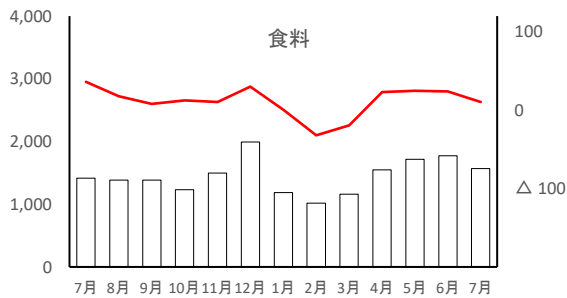
## インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出（7月）

インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出総額は13,913円で、前年同月比12.0%の増加となり、7か月ぶりに前年を上回った。

品目別にみると、食料は1,566円で前年同月比10.5%の増加、家電は1,404円で同255.4%の増加となったものの、衣類・履物は1,343円で同7.7%の減少、旅行関係費が2,447円で同39.3%の減少となった。



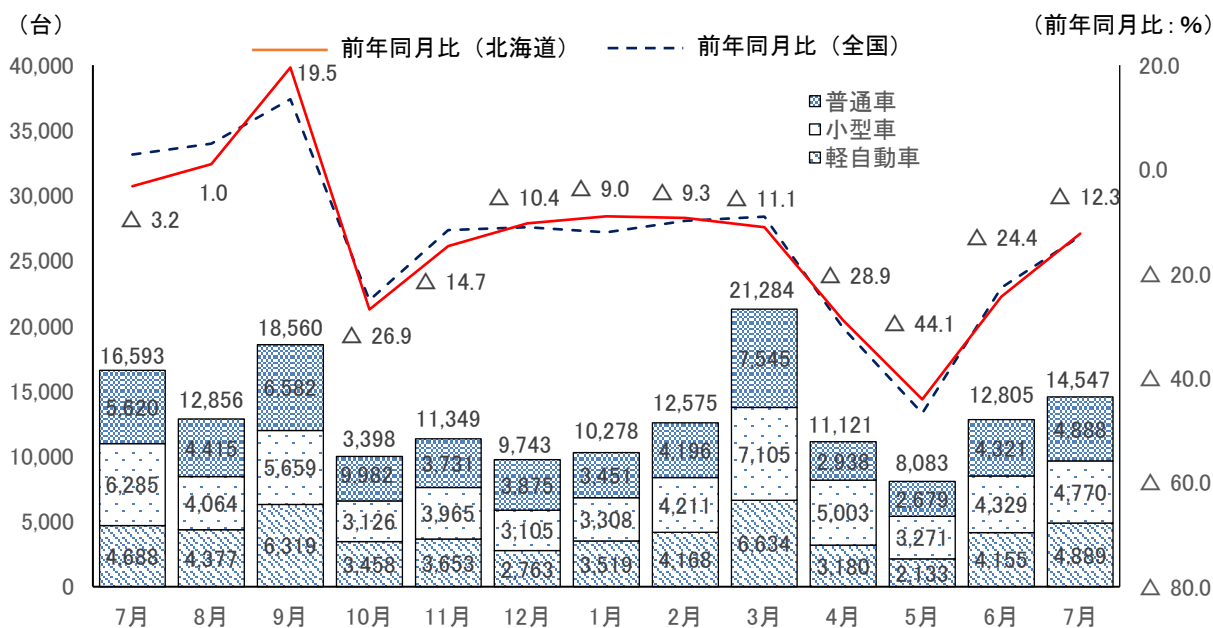
### ■品目別支出額（右軸：前年同月比%）



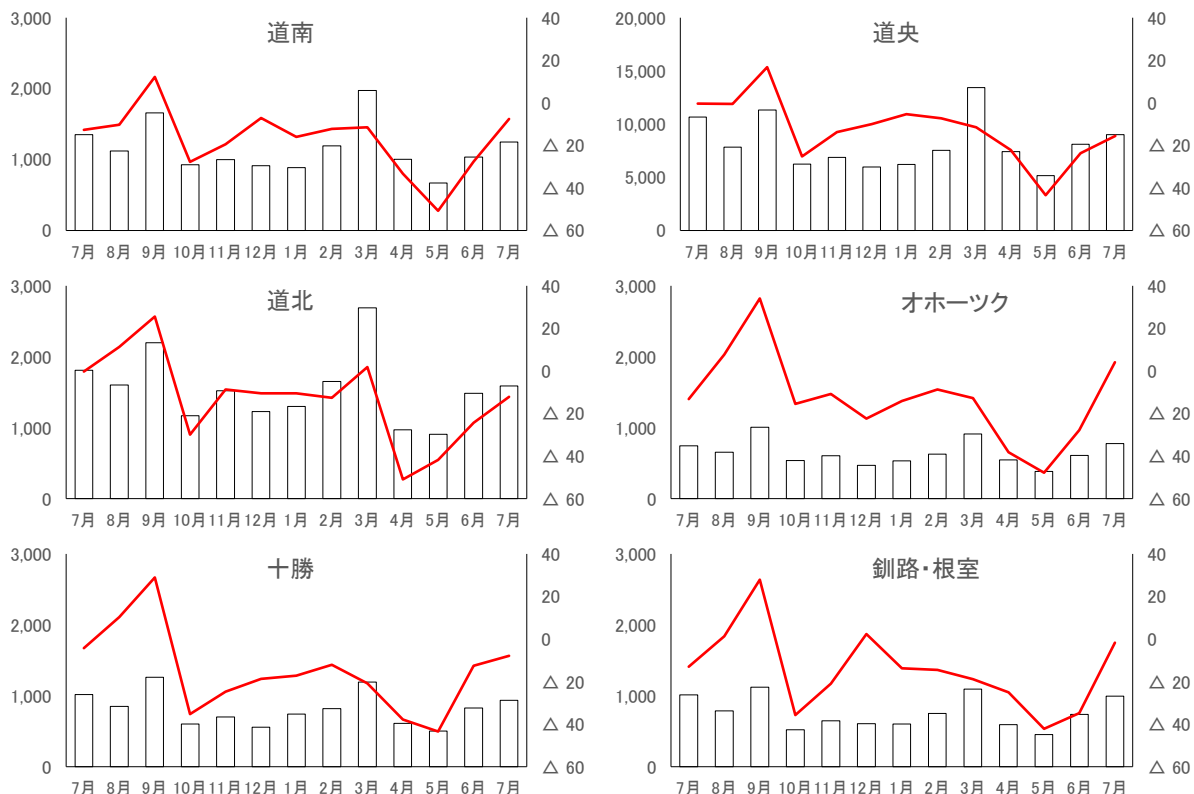
（資料：総務省）

## 新車登録台数（7月）

新車登録台数は、14,547台で前年同月比12.3%の減少となり、10か月連続で前年を下回った。  
 車種別にみると、普通車は、4,888台で前年同月比13.0%の減少、小型車は、4,770台で同24.1%の減少、軽自動車は、4,889台で同4.3%の増加となった。



### ■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）

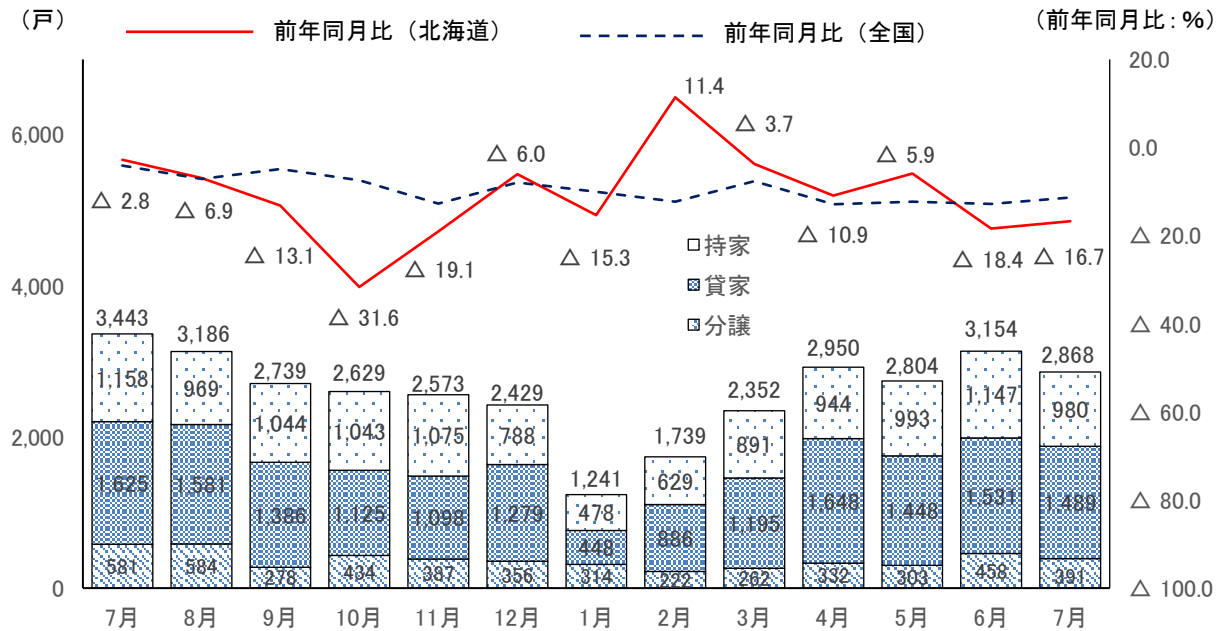


(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

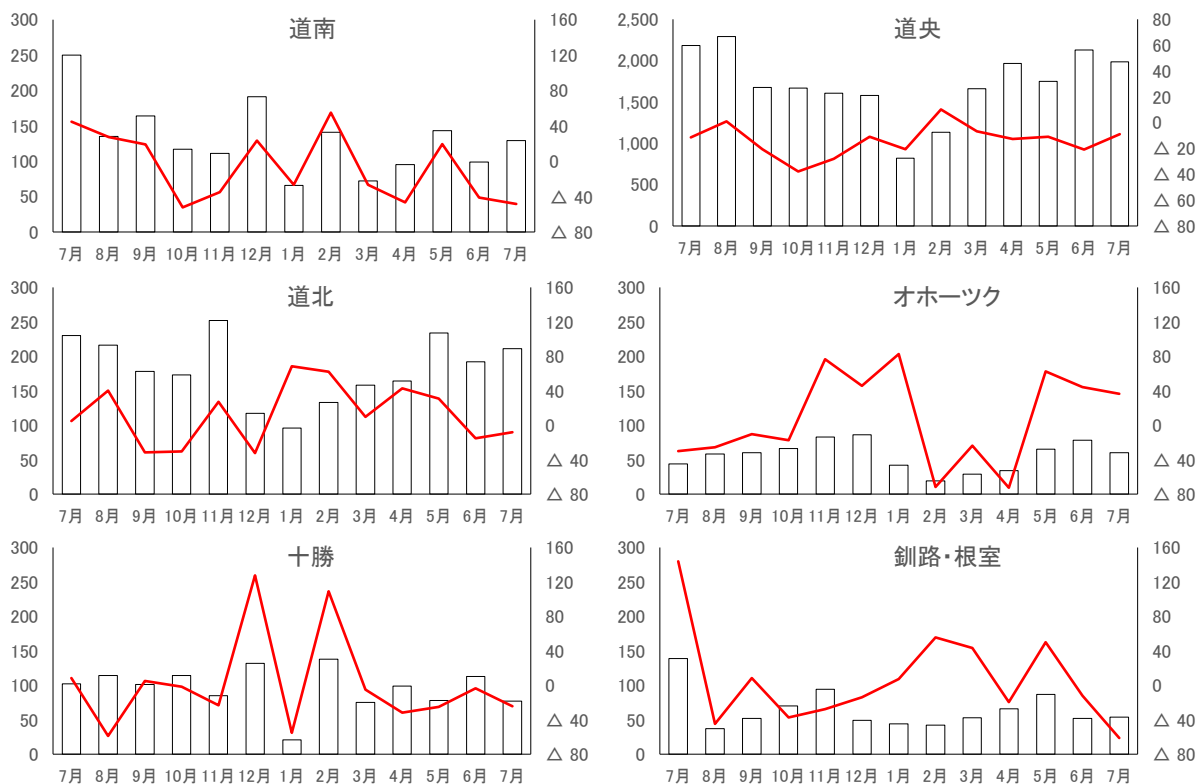
# ■住宅建設～減少している

## 新設住宅着工戸数（7月）

住宅着工戸数は、2,868戸で前年同月比16.7%の減少となり、5か月連続で前年を下回った。  
 利用関係別にみると、持家は、980戸で同15.4%の減少、貸家は、1,489戸で同8.4%の減少、分譲住宅は391戸で同32.7%の減少となった。



## ■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

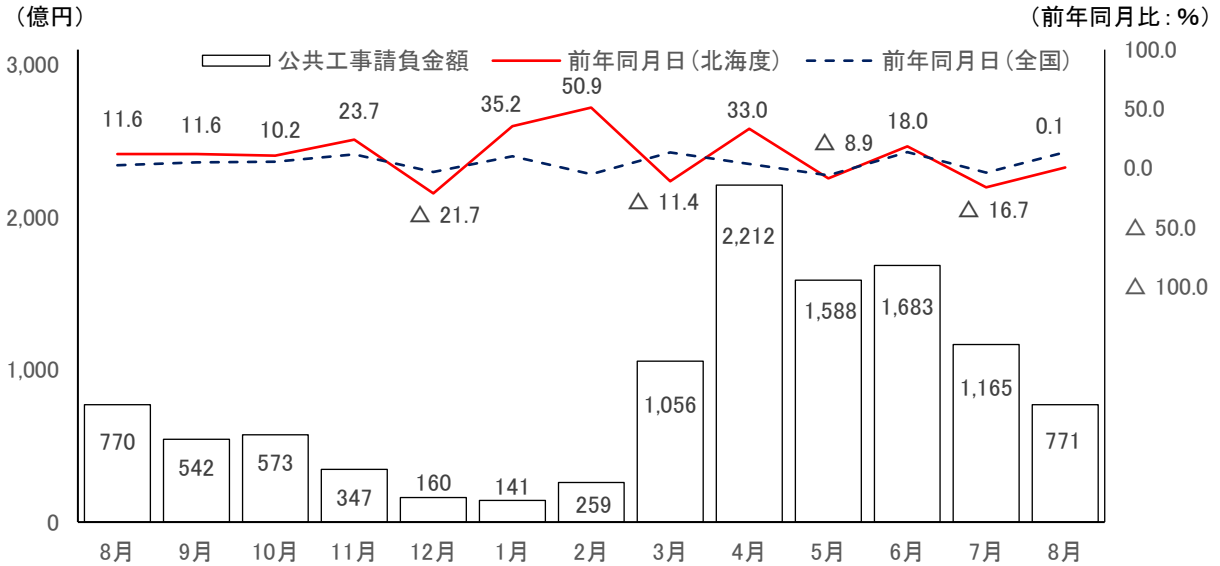


（資料：国土交通省）

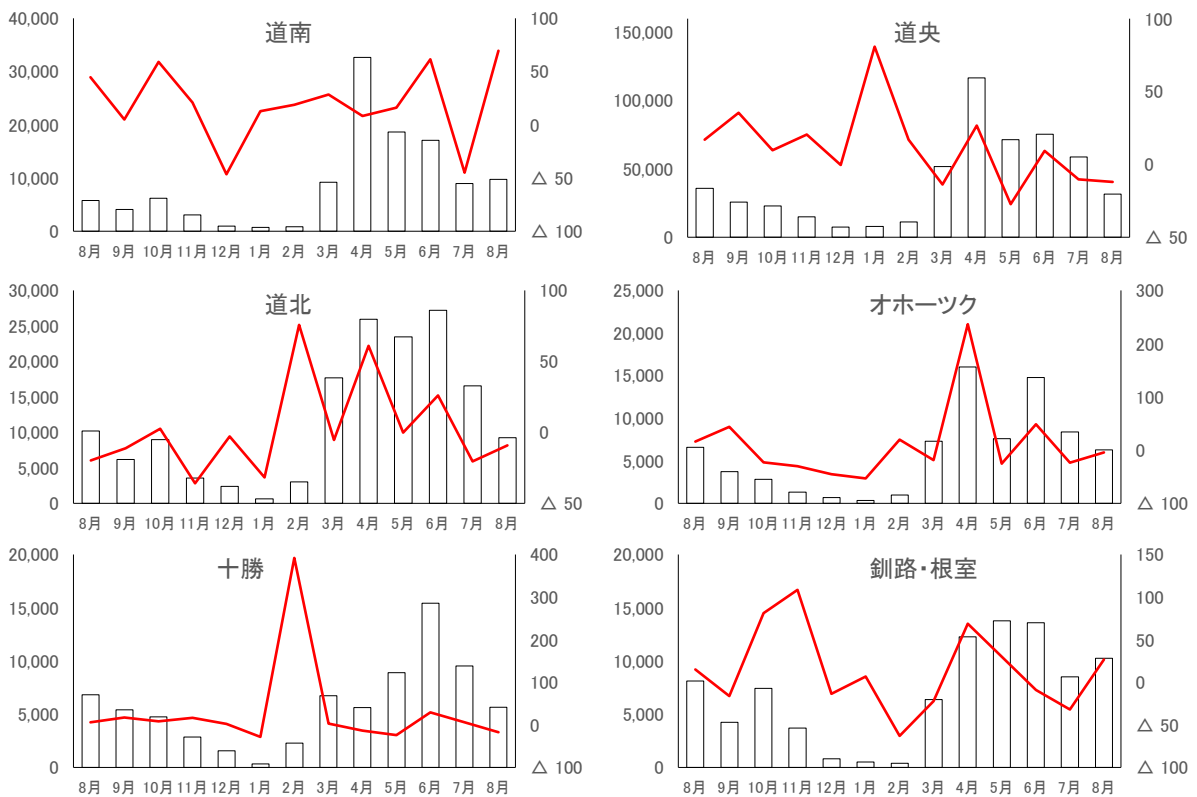
## ■公共工事～増加している

### 公共工事請負金額（8月）

請負金額は、771億円で前年同月比0.1%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。



### ■各圏域の公共工事請負金額（左軸：百万円、右軸：前年同月比%）



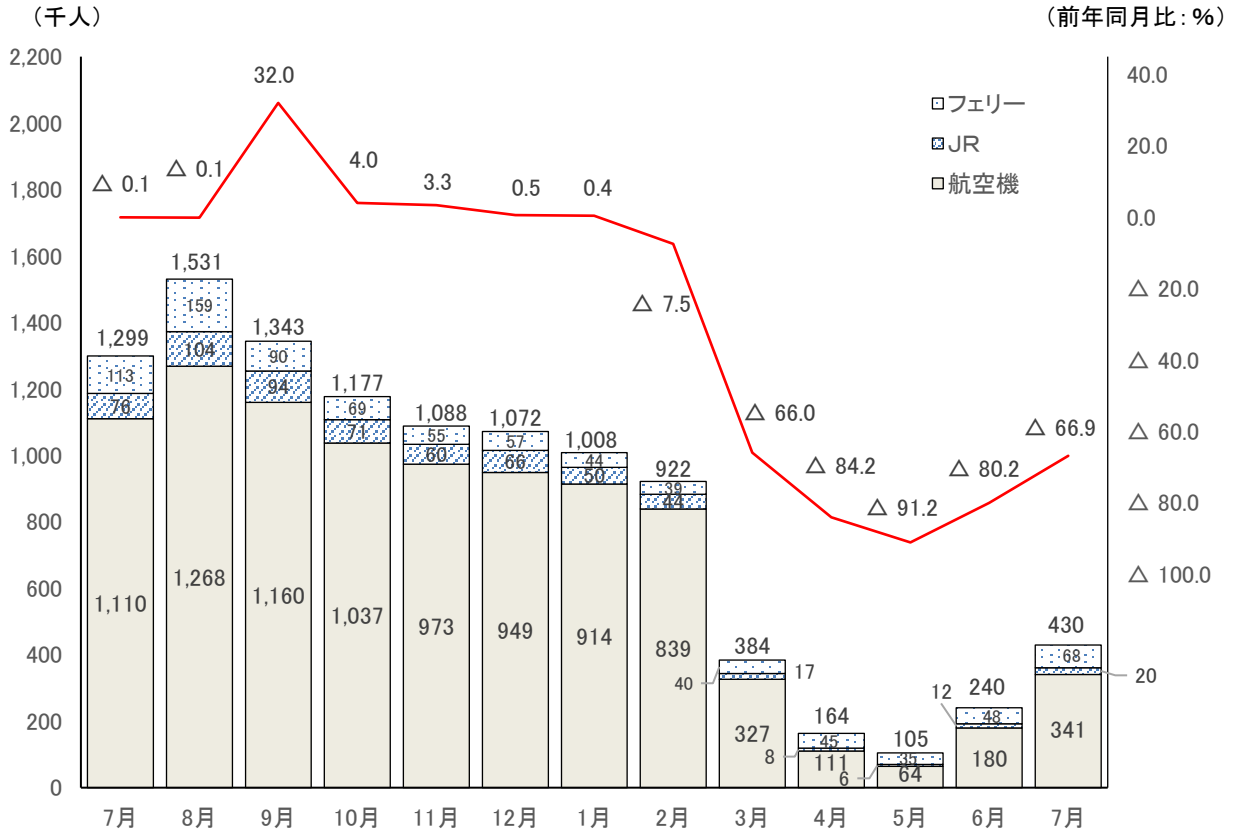
(資料：北海道建設業信用保証(株))



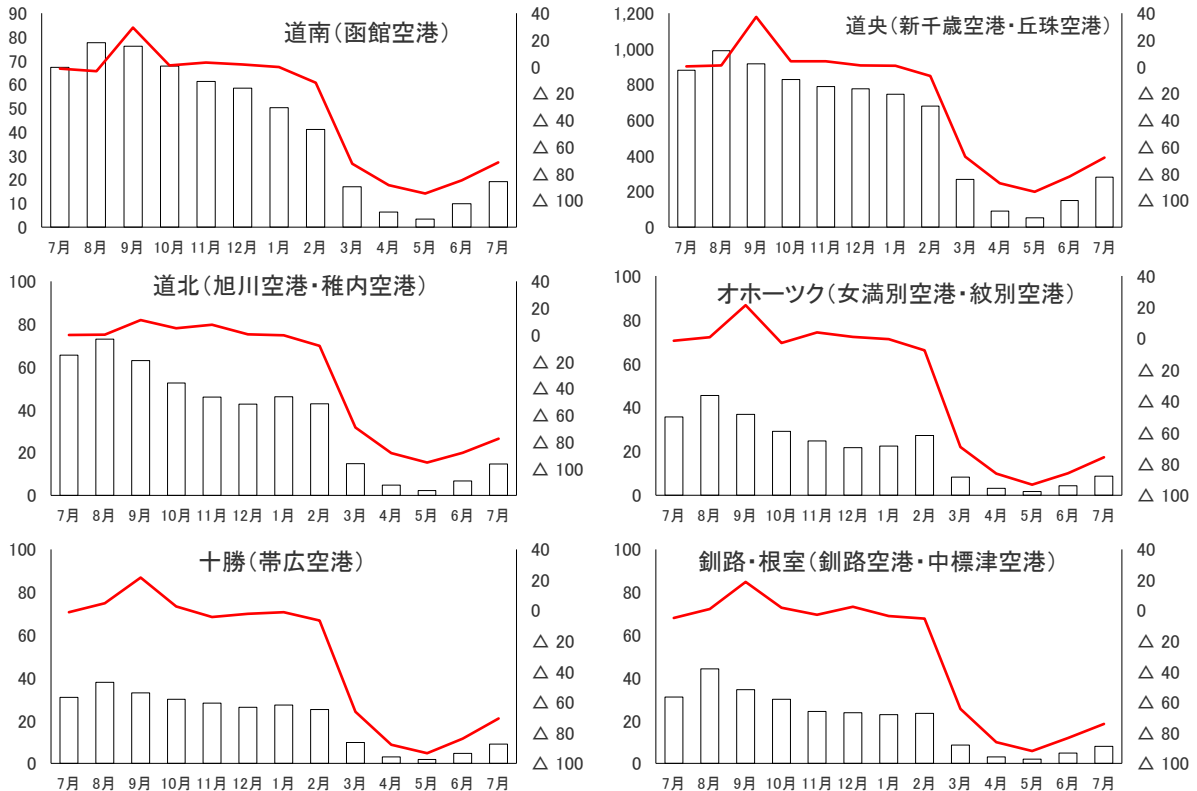
# ■観光～低い水準にあるものの、持ち直しの動きがみられる

## 来道者数（7月）

来道者数は、43万人で前年同月比 66.9%の減少となり、6か月連続で前年を下回った。



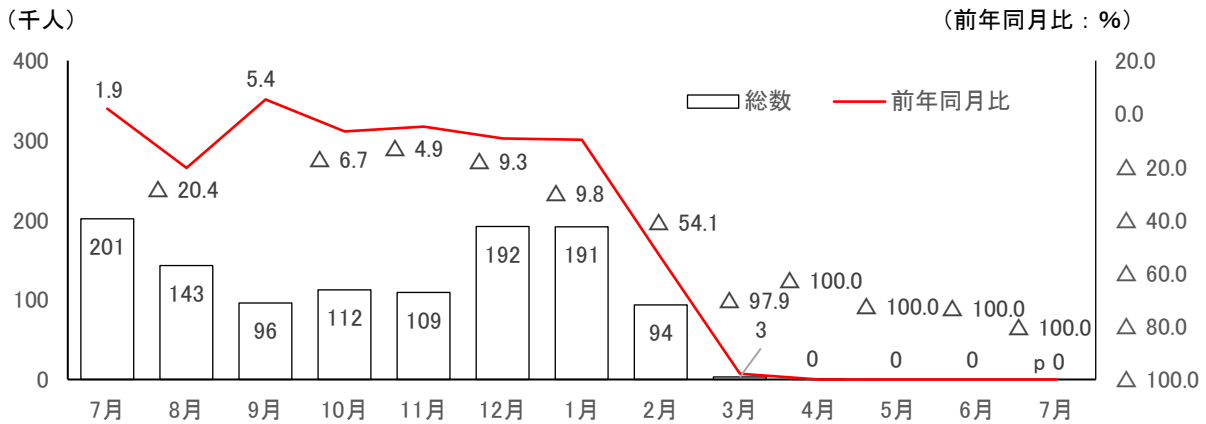
## ■各圏域の航空機利用による来道者数 (左軸: 千人、右軸: 前年同月比%)



(資料: (公社)北海道観光振興機構)

## 来道外国人数（7月）

本道に直接入国した外国人は、0人で前年同月比100.0%の減少となり、10か月連続で前年を下回った。

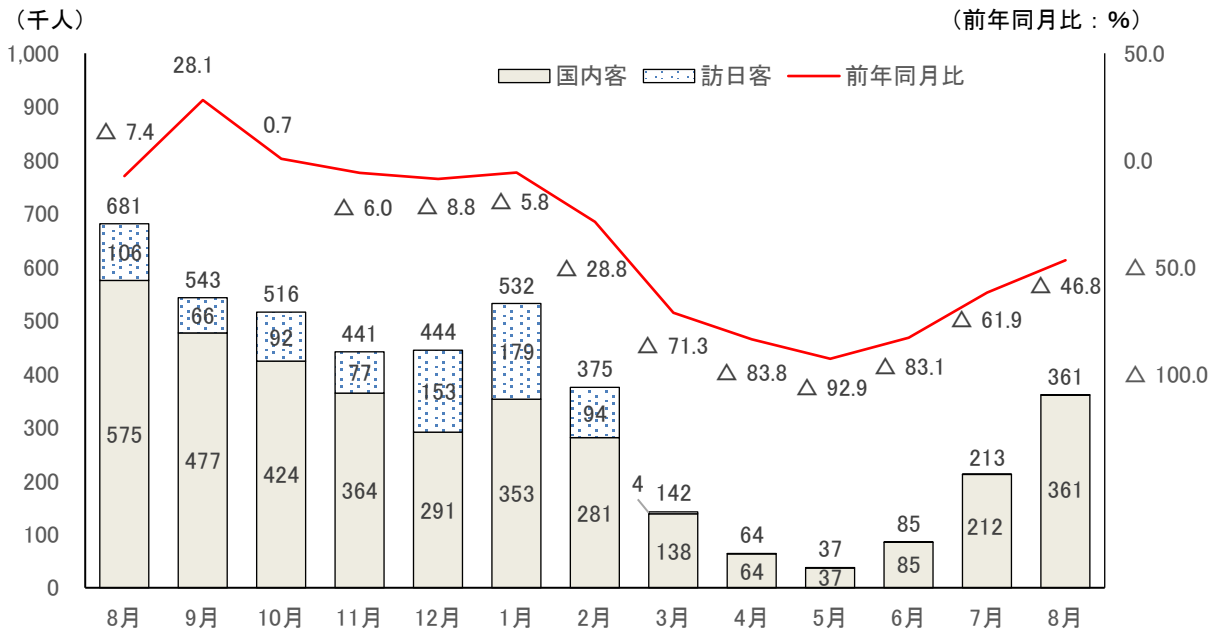


\*「p」は速報値 (資料:法務省入国管理局)

## 宿泊者数（8月）

日本旅館協会加盟施設の宿泊者数は、361,460人で前年同月比46.8%の減少となり、10か月連続で前年を下回った。

このうち、国内客は360,866人で同37.4%の減少、訪日客は594人で同99.4%の減少となった。

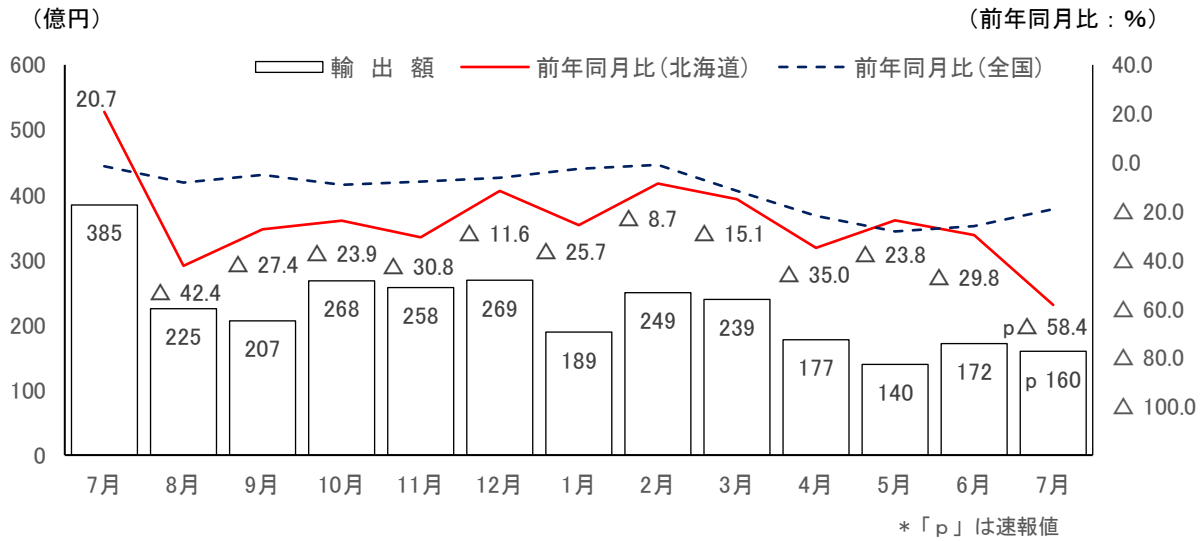


(資料:日本旅館協会北海道支部連合会)

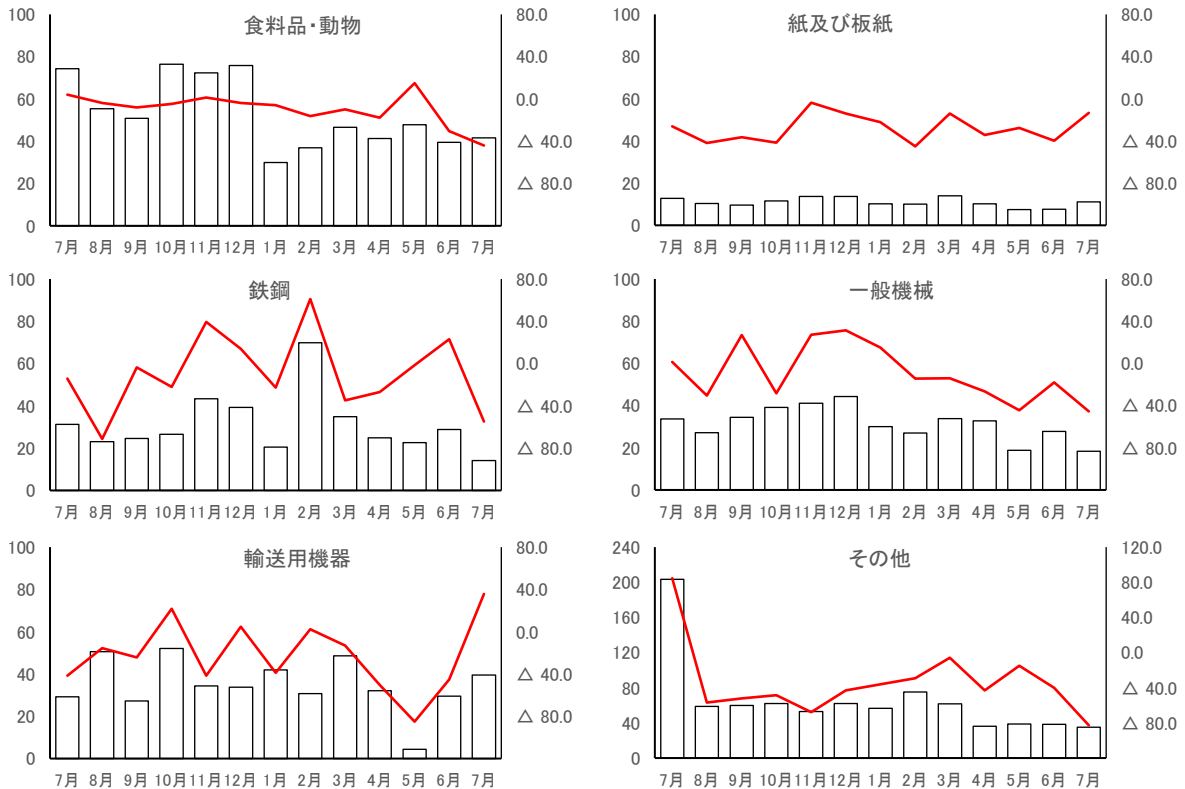
# ■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を下回った

## 輸出額（7月）

輸出額は、160億円で前年同月比58.4%の減少となり、12か月連続で前年を下回った。品目別にみると、輸送用機器などが増加し、食料品・動物、鉄鋼、一般機械などが減少した。



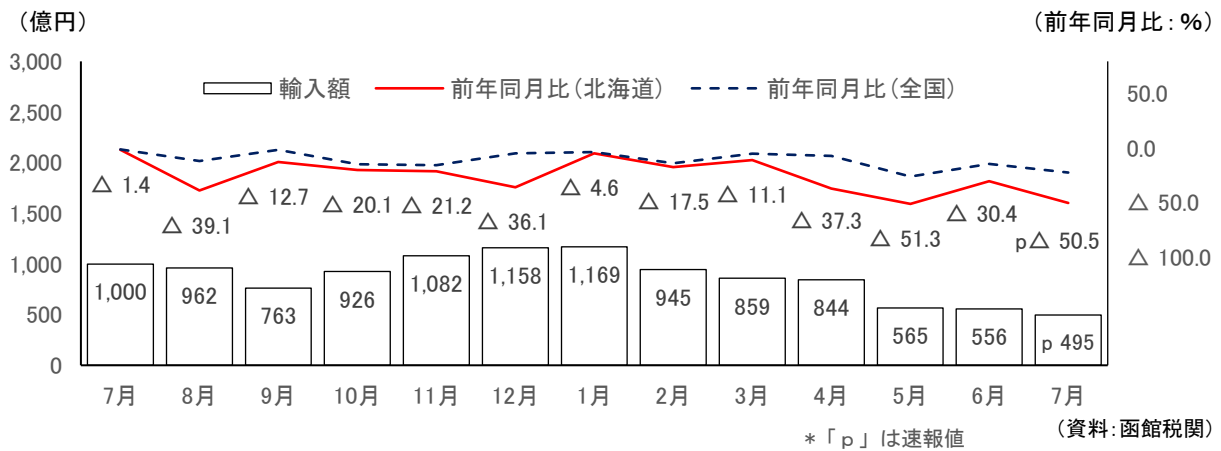
## ■種類別の輸出額（右軸：前年同月比%）



(資料:函館税関)

## 輸入額（7月）

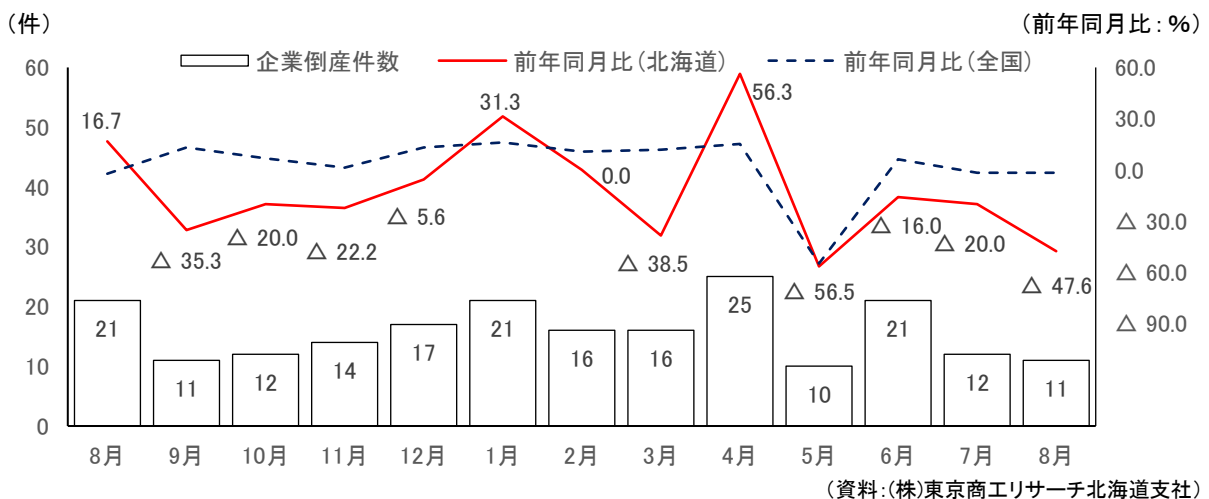
輸入額は、495億円で同50.5%の減少となり、15か月連続で前年を下回った。  
品目別にみると、原油・粗油、石炭、一般機械などが減少した。



## ■企業倒産～倒産件数、負債総額ともに減少した

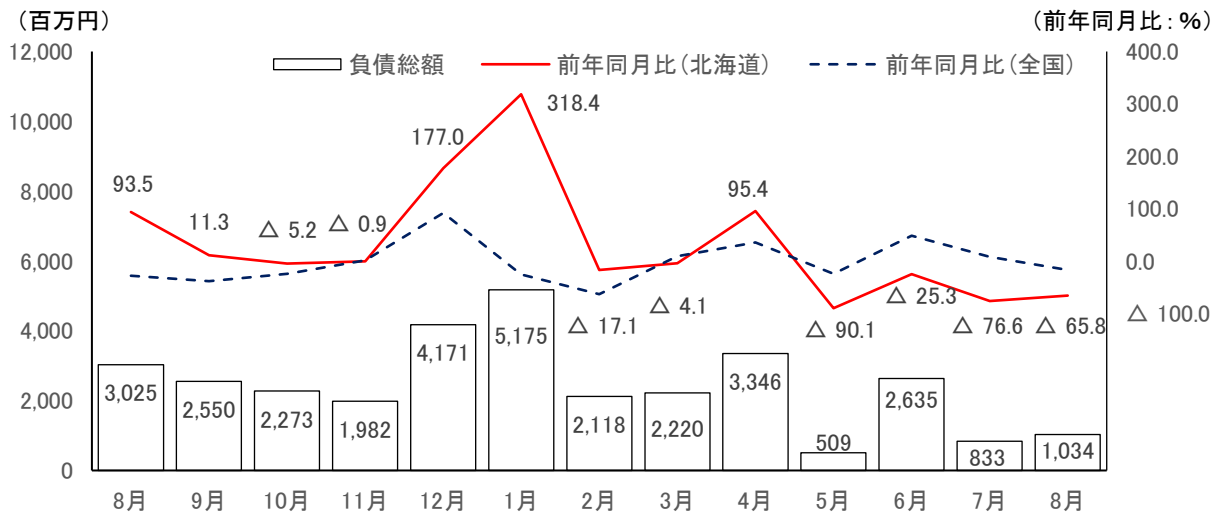
### 倒産件数（8月）

企業倒産件数は11件で前年同月比47.6%の減少となり、4か月連続で前年を下回った。  
原因別でみると、販売不振が8件（構成比72.7%）と半数以上を占めた。  
業種別でみると、サービス業が6件（構成比54.5%）、建設業3件（同27.3%）となった。

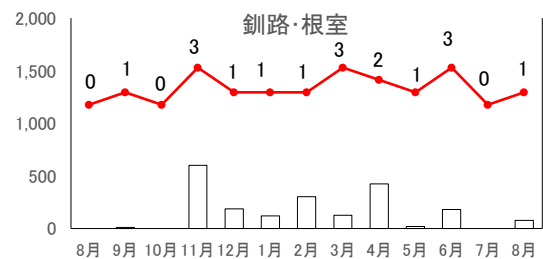
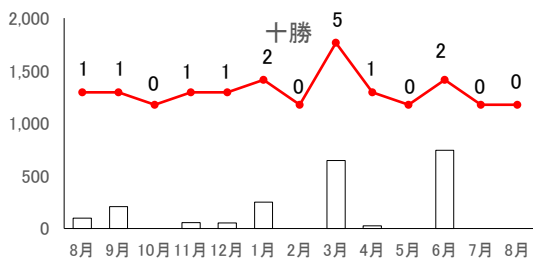
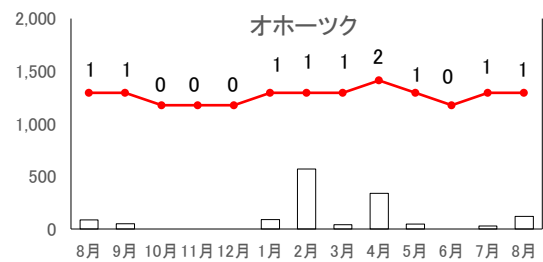
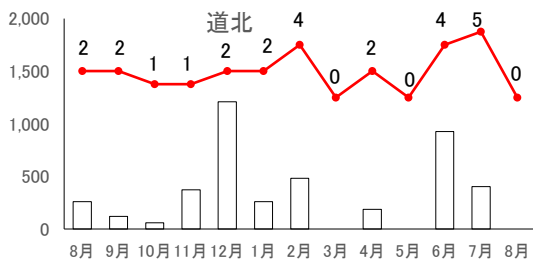
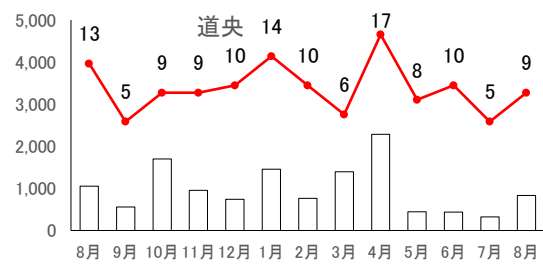
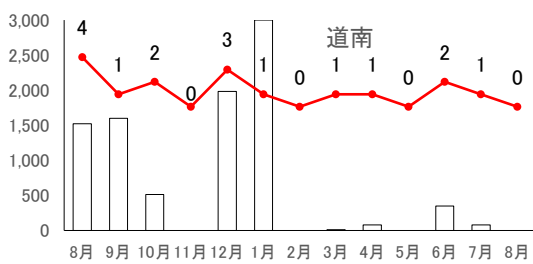


## 負債総額（8月）

負債総額は、10億34百万で同65.8%の減少となり、4か月連続で前年を下回った。



### ■各圏域の負債総額と倒産件数（折れ線）

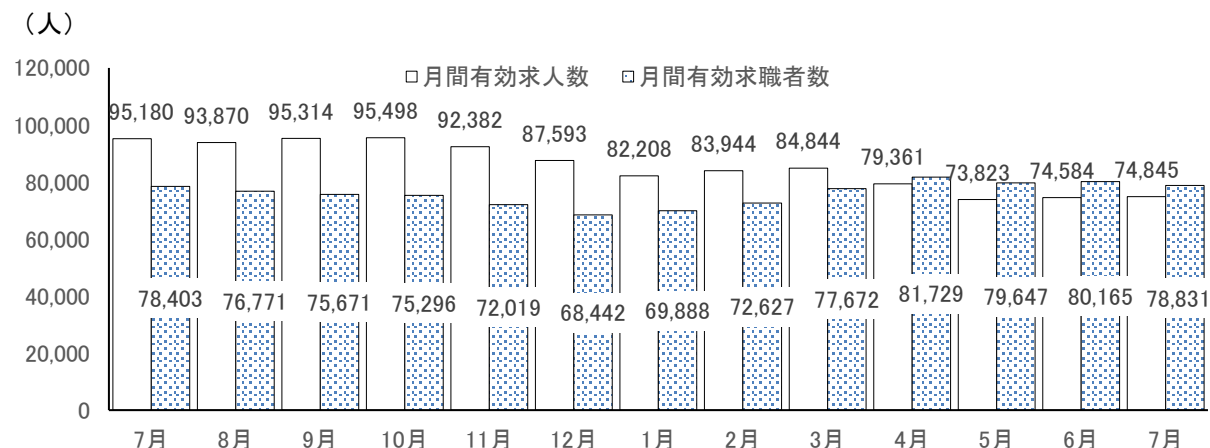


(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社)

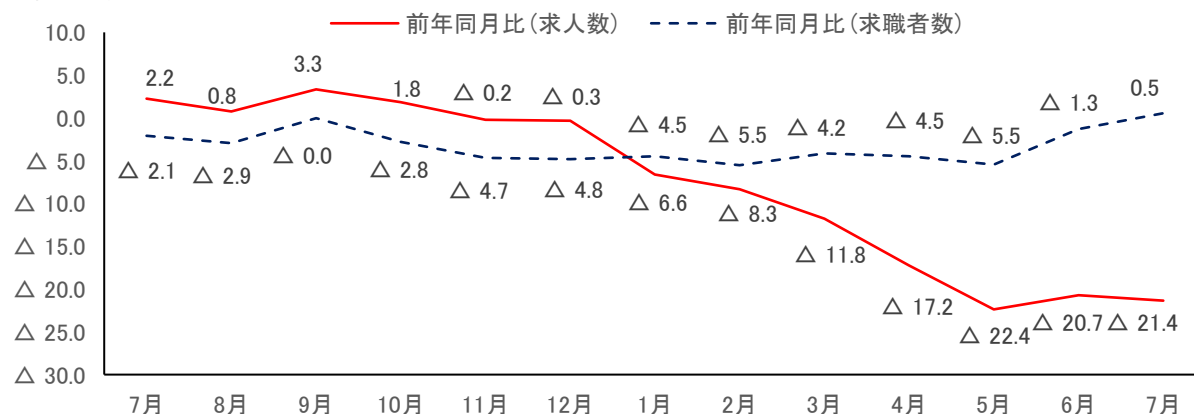
## ■求人・求職～弱い動きが広がっている

### 月間有効求人数・求職者数（7月）

月間有効求人数は、7万4,845人で前年同月比21.4%の減少となり、9か月連続で前年を下回った。月間有効求職者数は、7万8,831人で同0.5%の増加となり、105か月ぶりに前年を上回った。



(前年同月比：%)



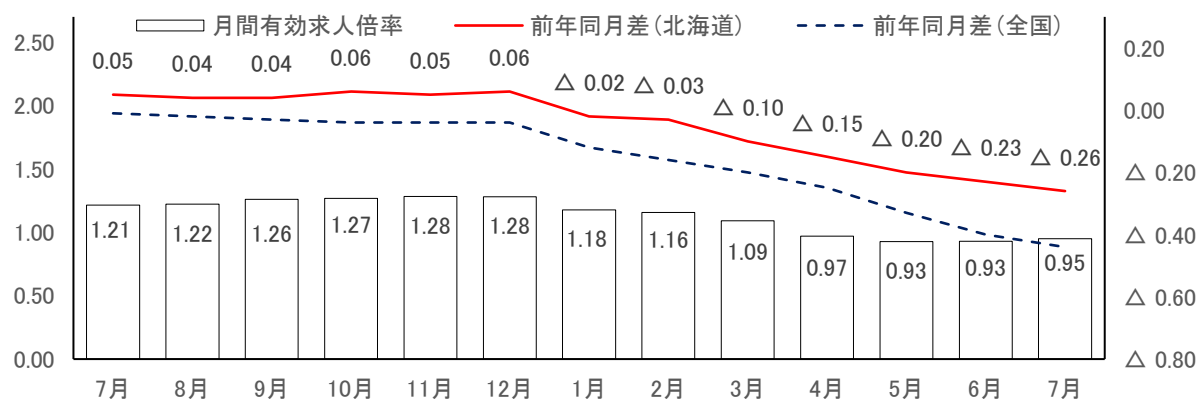
(資料：北海道労働局)

### 月間有効求人倍率（7月）

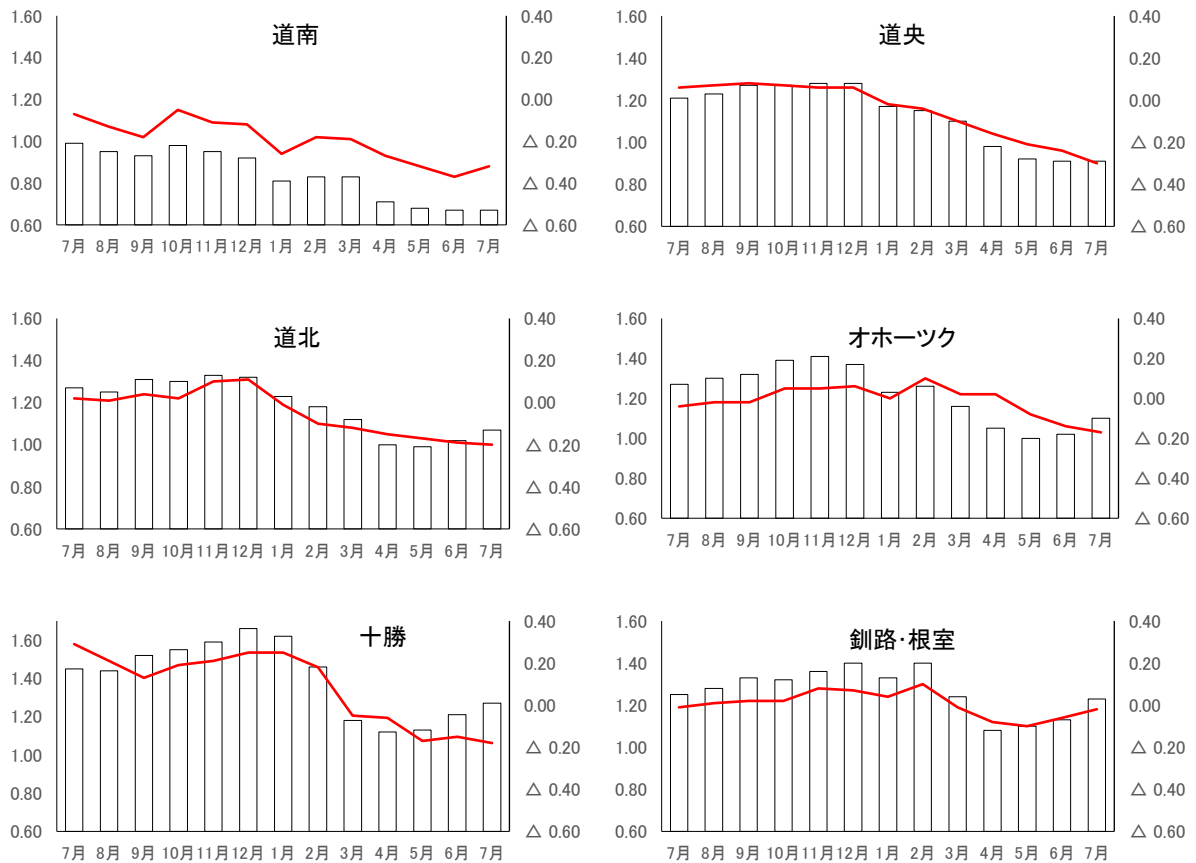
有効求人倍率は0.95倍で、前年同月差で0.26ポイントの減少となり、7か月連続で前年を下回った。

(倍)

(前年同月差：ポイント)



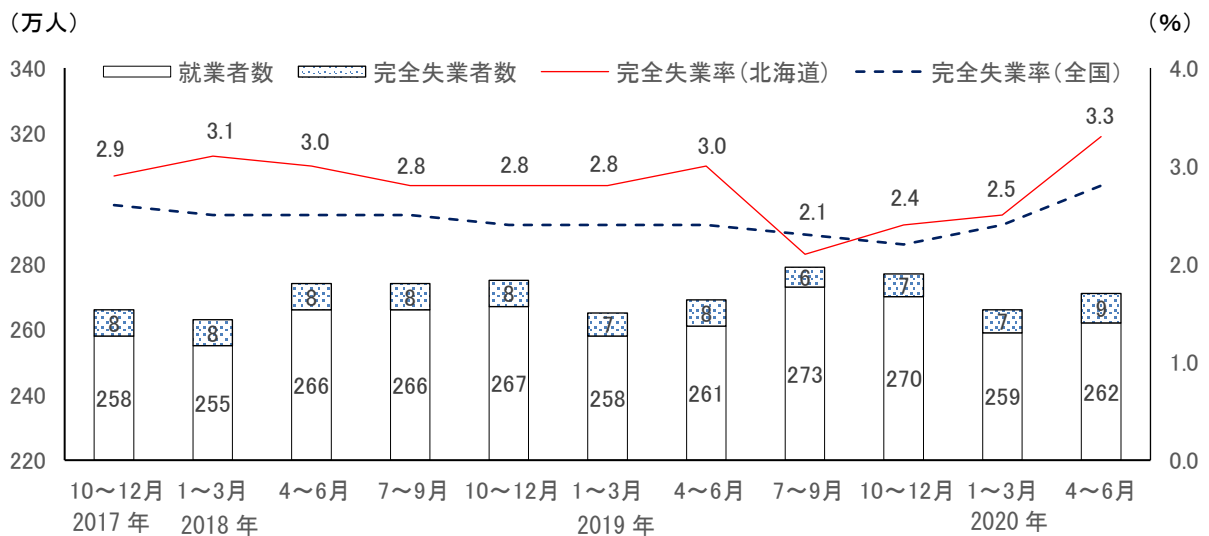
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差）



(資料:北海道労働局)

完全失業者数、完全失業率（令和2年4－6月）

完全失業者数は、前年同期と比べ、1万人増加している。  
完全失業率は、3.3%で前年同期と比べ、0.3ポイント上昇となっている。

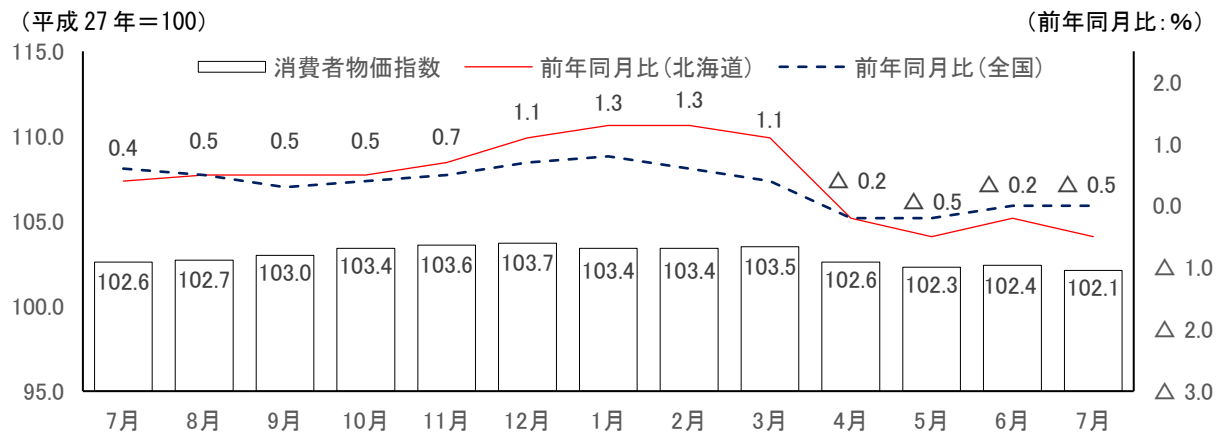


(資料:総務省)

## ■物価～消費者物価指数は前年を下回った

### 消費者物価指数（7月）

消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、102.1で前年同月比0.5%の下降となり、4か月連続で前年を下回った。

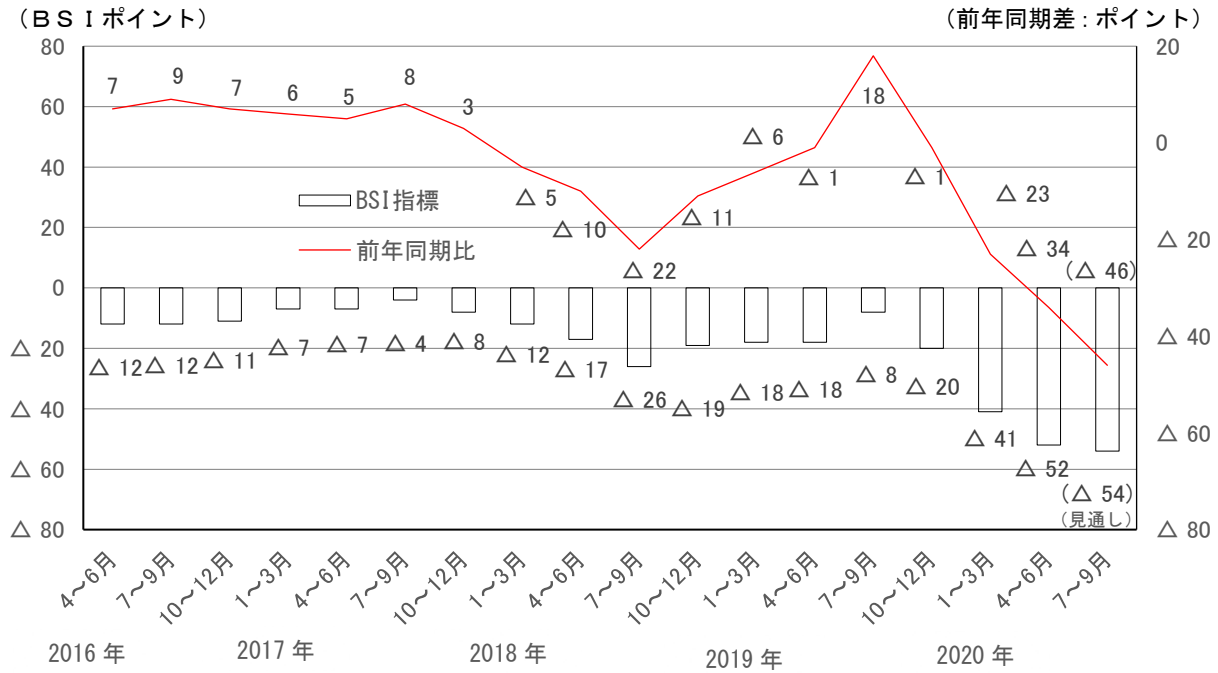


(資料:総務省)

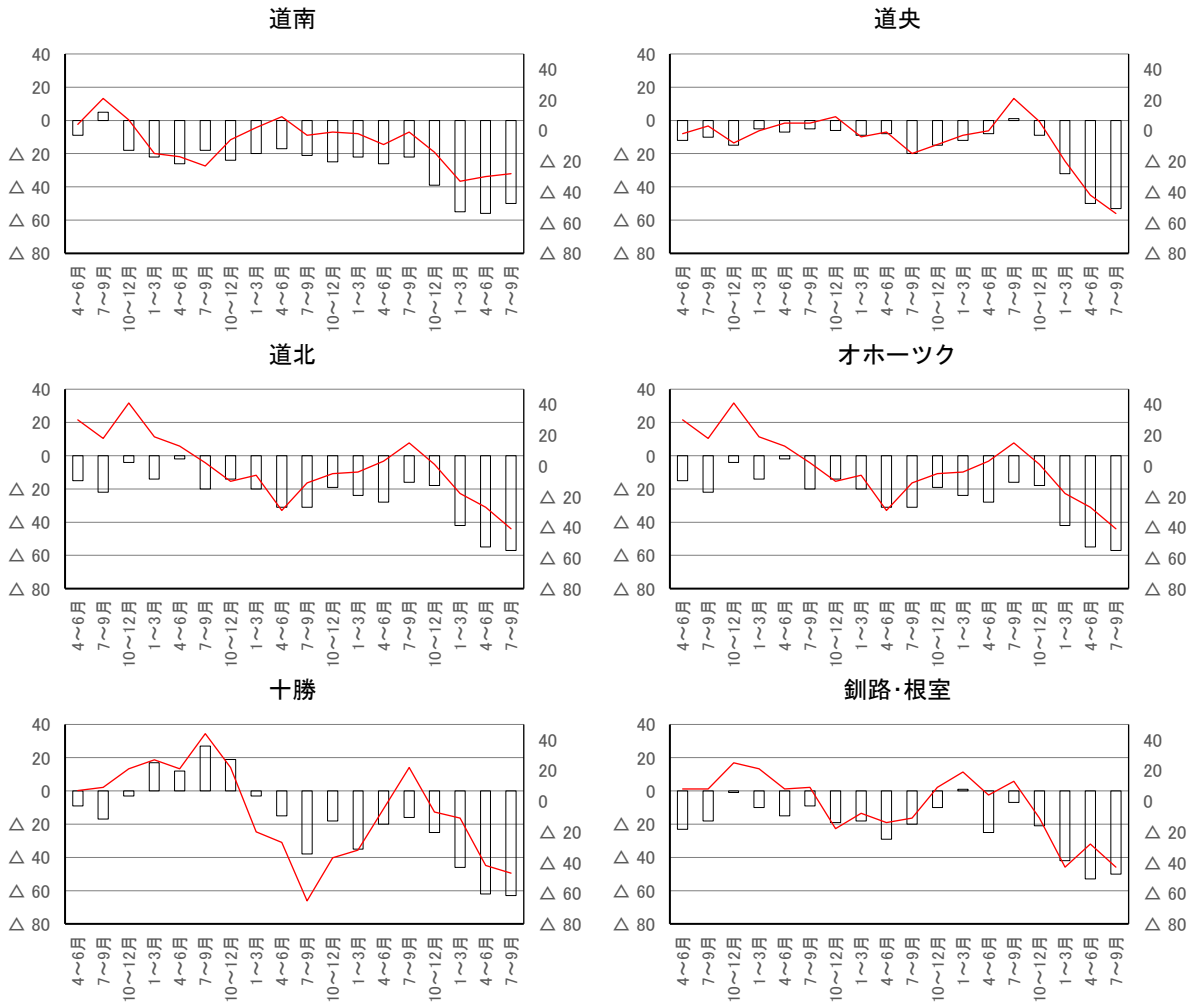


# ■企業経営者意識調査～前期から下降している

令和2年4～6月期の業況感BSIは△52ポイントで、前期から11ポイント下降しており、前年同期より34ポイント下降している。来期見通しは△54ポイントで、今期から2ポイント下降の見通しとなっている。



各圏域の業況感BSI (右軸：前年同期差)



(北海道経済部調べ)

## ■企業のみなさまから伺いました

### ◆百貨店（道央地域）

【衣料品は低調だが、寝具等のイエナカ消費は好調】

8月は、前年比売上は2割以上減少しているものの、引き続き目的を持って来店されるお客様が多く、客単価は高めに推移している。通常は夏のセールの影響が残っている時期であり、秋物も店頭には並ぶ時期だが、コロナ禍で撤退したアパレル衣料品ブランドがいくつかあり、その影響が9月の衣料品売上にも引き続き影響している。そのかわりに、ベッド等の寝具類など、家の中の生活を充実させる為の商品が好調。食品関係は、客数が売上に直結する傾向にあるため、全体売上同様に2割以上減少したが、お盆時期に実施するお中元解体セールをオンラインで実施したところ好調で、ネット利用客は増えている状況。

### ◆スーパー（道央地域）

【帰省自粛で売上のピークに変化】

8月は、例年は12日を中心に売上が盛り上がるが、今年はコロナ禍による帰省自粛の影響と曜日回りから8日と9日の土日にも売上が分散し、お盆の大きなピークがなく推移した。帰省自粛の分、生鮮ギフトを贈る傾向が強まり、特に青果（トウモロコシ、メロン）が好調だった。地方店舗ではお盆の「ごちそう」需要が減少したが、札幌市内では通常品の売上が好調だった。また、夏休みが短くなり学校がある日が多くなった分、朝食関連商品の売れ行きがよかった。

### ◆コンビニエンスストア（道央地域）

【行楽地で回復傾向、シティホテル周辺で鈍く】

7月下旬からの「G・O・T・Oトラベル」キャンペーン開始以降、アウトドアを中心とする行楽地の人出は回復傾向にあり、8月の行楽需要は戻りつつある。一方、外国人観光客が来ていない影響からか、シティホテル周辺店舗の回復は鈍い。

【人の動きが変化】

全体として21時以降の客足の減少は継続しており、人の動き方が変わってしまった感がある。品目別では、家庭内で消費するスイーツなどは好調を維持しているほか、調理して食べる素材系の商品、調味料、衛生用品、アルコール類が好調な一方、人の動きが依然として鈍いことにより、タバコや飲料水が不調となっている。

## 最近の経済動向

令和2年9月号

---

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

---

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>